

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401395		
法人名	有限会社タグ		
事業所名	グループホームゆう 1F		
所在地	名古屋市緑区桶狭間北3丁目111番地		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhvou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 S101号室
訪問調査日	平成22年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームゆう」は、母体組織が病院ということもあり、介護における医療面でのケアが特に充実していると考えています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である透析センターで、透析を受けて頂けます。また職員の教育にも力を入れており、認知症・拘束・虐待等の講習、勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加できる環境を、積極的に作っています。

関連施設が2施設隣接しており、情報交換・緊急時の対応も協力し合える体制にあります。

運営理念は、職員一同「優しく寄り添い 優雅な老後を育み 優長に心を癒し 優雅で 美風ある住とする」を共有、実践し入居者様に、明るくゆったり生活できる空間作り心がけています。

地域に根付いたホームを目指し、高齢者の介護に関する市民講座を開催し、多数の参加を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名古屋市緑区の桶狭間地区の緑に恵まれた地域に立地する当ホームは、職員全員が利用者の「今」の気持ちに寄り添い、心を大切にしたケアを心掛けている。通りに面した「掲示板」やホーム主催の「市民講座」「子供110番」等、地域への情報発信も積極的に行っている。地域の行事に利用者も参加したり、ボランティア(歌・踊り・フラダンス・コンサート等)・体験学習などの受け入れも行っている。毎月ホーム便り発行して、利用者の様子などを家族に報告している。自己評価は職員全員が記入して管理者がまとめたり、関連事業所との合同会議・管理者会議を開催したり、さらに社内教育や外部の研修会への職員の参加もすすめる等、職員のレベルアップに努めている。また、隣接するクリニックと連携し、夜間対応も可能であり、安心して過ごすことができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念である「ゆったり・のんびり・優しく寄り添い・優雅な老後・心を癒し・美風ある施設」を念頭に、毎朝の申し送り後に唱和し職員全員が理解して、利用者様のペースに合わせ実践している。	理念を基に、利用者がゆっくり・のんびりと過ごして頂くことを大切にしている。「無理強いしない」「急がせない」「その人のペースを一番大切に」を確認しながら、職員全員が理念を共有し、理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、散歩・近隣スーパーへの買い物等、行っている。地域の行事(老人会)には、利用者様と一緒に参加したり、地域の方々のボランティアで歌や踊り等を、施設で披露して頂いている。又、地元の中学生の職場体験も受け入れている。	地域の清掃・避難訓練・祭り等に参加している。ボランティアや中学生の体験実習受け入れも行い、地域との交流を大切にしている。ホーム主催の市民講座を昨年も実施し、地域住民の参加をみた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症等、高齢者に携わる為の知りたい情報をテーマにした市民講座を開催し、地域の方々が多数参加された。又、質問コーナーも設け、看護師が個別に相談にのって、地域貢献にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長等地域の方やご家族の協力の下、2ヶ月に1回必ず開催ができており、地域の方からの地域活動等の経過なども教わっている。又、行政職員である地域包括支援センター職員の参加も叶い、行政側の意見も頂いてサービスの向上に努めている。	会議は、年6回開催している。運営状況について話し合い、例えば、スタッフの名札は付けているが、顔写真の掲示をという意見があり、現在検討段階である。地域包括支援センター職員の出席が叶わなかったが、出席が可能になった。	利用者・家族からの意見を把握し、継続して改善に向けて取り組みを行うことや、地域包括支援センター職員の出席も実現したこともあり、より成果が期待できる会議を実現されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の連絡会には必ず出席しており、合同会議・管理者会議で社内展開している。又、名古屋市に対し合同会議の内容や独自アンケート等の報告をし、指導を頂きサービスの向上に努めている。	毎月開催する合同会議後に、市の介護指導課に出向き、空き状況・「サービス改善アンケート」結果報告等、情報交換に努めている。市主催の会議等へ出席し、情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルは随時見直し、職員全員が身体拘束をしないケアの実施を理解できるよう、勉強会・外部講習に参加し社内展開している。又、事例や「身体拘束排除宣言」を事務所に掲示し、常に念頭におき言葉による拘束にも気をつけている。	身体面の他、会話や言葉かけにも注意している。大きな声で話したり、言葉のトーンがきつい場合には、職員間で確認している。玄関で不穏になった利用者には、一緒に散歩に出かけ気分転換を図っている。夜間は安全の為、家族の了解のもと玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会・勉強会等には出来る限り、管理者や職員に参加を促し、職員全体に展開している。今後、高齢者虐待防止関連法について詳しく学ぶ機会を設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務長が率先して研修会に参加している。又、PSWによる講義も行った。今後も研修会・勉強会等がある場合は、積極的に参加し全職員が理解できるよう、展開していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間を取り納得のいくまで説明をしている。又、改定等の際は、事前に書面にてご家族様に知らせ、理解・納得を図り、疑問点はその都度、十分な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の意見等を聞ける体制にある。又専用ノートを設け利用者からの苦情を書きとめ、スタッフ全員で対応策を検討し、会議を通じ全グループ施設に展開を徹底している。独自のアンケート調査を行い、苦情等の意見を聞きやすい状態を作っている。	毎月「ゆう便り」を発行し、行事予定や利用者の様子を伝えている。家族面会時に、要望などを聞いて「記録ノート」に記入して、情報を共有している。また、ホーム独自アンケートでの意見等を職員会議等で話し合い改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・管理者会議で職員の意見を聞き、話し合い反映に努め、結果等合同会議で展開し、全職員に伝えている。	管理者は、職員会議や日常の中で職員の意見・要望等を聞き取っている。転倒が多くなったため、職員の提案をもとに検討し、「体操」に「足踏み」を加えたら、転倒が減少した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	情意・能力・業績等に基づいた給与査定制度を実施しており、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作り、経験等を考慮した研修を薦めている。又、研修等の情報は、管理者を通じ伝えたり、掲示によって全職員に展開している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、主催する研修・勉強会に参加し、同業者との交流も密に行っている。又、同地域の施設に訪問し情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・看護師・ケアマネが面接等に伺い、十分な把握に努めている。家族シートにも記入して頂き、本人・家族の要望等を聞き、全職員に展開し、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学等積極的に受入れ、現場案内時、十分に説明している。その都度相談を受け、問題点を解決出来る様、十分に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、利用開始前に必ず本人と面接をし、管理者・ケアマネを含め、その利用者・家族等が必要としているサービスを見極め、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	水分補給・食事・レク・おやつ等の時間にコミュニケーションをとり、一人ひとりの出来る事を見極め、縫い物・食事の支度・掃除等、見守りながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り・面会時に、本人の状況を報告し、家族等と情報交換を行っている。又、ご家族にレク・イベント行事へお誘いし、一緒に過ごせる様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人から、年賀状・絵手紙を馴染みの方に送ったり、近所ならスタッフと共に出かけたりしている。電話や訪問は常時、受け付けている。	友人の訪問時には、ゆっくり会話ができるように場所の提供をしたりしている。さらに、エステやお墓参りに行ったり、一人ひとりの希望に添うよう家族と協力し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の気持ちを大切にしつつ、関わり合い・支え合える様、皆さんでレクやお手伝い等で、集まれる場を作っている。テーブルの席も配慮し、孤立しない支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で一旦退去になった方も、関係を断ち切らず見舞い等フォローに努め、状況に応じ再度の契約や他のサービスの提供等、柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族に記入して頂いた心身の情報に基づき把握するとともに、話し合いをしていく中で、本人本位の支援をしている。又、常に変化に注意し、見守っている。	利用者の思い等を聴き取り「心身の情報」に記入して、職員間で共有している。また、一人ひとりの「日常生活チェックシート」に1日の記録を記入して、気づきや変化があれば、申し送りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴について、本人・家族に予め記入して頂いた物を参考に、日頃の様子や会話等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の申し送り、スタッフ会議、日々の記録、健康状態等から、把握に努めている。又、少しの変化にも気づけるよう意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最長でも3ヶ月以内、状況の変化に応じ随時、担当者や本人と話し合い、その時に合った、介護計画を作成している。意見・アイデアは、常に書き留める様メモ欄を作成し活用している。	利用者や家族の要望等を把握し、担当職員・ケアマネ・管理者が話し合っ、計画を作成している。モニタリングは、3か月に1回行っている。毎日のモニタリングをABCの3段階評価で連絡ノートに記入して、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録には、細かい状態の変化も記録し、職員間で情報を共有しながら、計画の見直しに活かしている。サービス内容には項目をつけわかりやすくしている。メモ欄には、意見・アイデアを書き留めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに応じて、介護の支援を工夫し巾を持った対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の祭り・敬老会・清掃活動等に参加している。地域のボランティアの方の訪問もあり、歌・踊り・手品等で楽しんでいる。又、移動図書や地域の図書館も利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を尊重しかかりつけ医の受診を支援している。ご家族様が付き添えない場合は、職員が対応している。又、隣接している協力医療機関では、定期健診・受診を受けられる体制になっている。	利用後は、協力医に変更する人が多いが、以前のかかりつけ医の人もいる。人工透析の人には、職員が隣接する病院へ通院支援している。認知症老年科専門医へ週1回の通院も、職員が送迎支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で2名の看護師が在籍している。又、隣接する協力医療機関の訪問看護を利用しており、相談・指導を頂き、適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、ケースワーカー・退院促進との連絡を密にとっており、ご家族様とも情報を交換し、早期退院・退院後の支援をしている。それらの情報を職員間で共有し、利用者様に安心して頂ける体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いている。利用者様・ご家族様から要望があった場合、チームでの支援の体制も「看取り検討委員会」で話し合い、職員全員が同じ方針の下、支援していく体制にある。	看取りについて、職員間で検討に加え、「看取り委員会」でも検討している。家族からの意見で最後までホームで過ごしたいとの希望がある為、「重度化した場合の指針の同意書」の下、チームで体制を作り支援に向けて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議等で、初期対応・応急手当の訓練を定期的に行っている。AEDも設置しており、扱い方もメーカーの職員を招き、勉強をした。又、各個人の緊急情報も備えており、全職員が対応できる体制にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様も実際に参加する年間2回の訓練は、実施日・内容を消防署に届け、実施している。内1回は夜間を想定し、隣接する施設との連携の訓練もしている。	避難訓練を年2回定期的実施している。火災自動通報装置を押して通報して、利用者を外へ誘導する訓練や消火器の使い方などを行った。居室入り口に車椅子・杖の絵マークで協力が得られやすい工夫をしている。	利用者も参加する避難訓練を実施したことで、改めて見えてきた課題もあると思われる。夜間の態勢等、今後も継続して取り組みを続けられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を忘れずに、丁寧でわかり易い言葉がけを心がけている。又、スタッフの表情・声の大きさもお互いに十分中止しあっている。	排泄や着替え等声かけする時は、周りに気付かれないように気をつけている。排泄時には、トイレから少し離れ見守りをしながら支援し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりはっきり尋ね、理解して頂き、利用者様の自己決定をゆっくり待つよう、心がけている。笑顔でリラックスした話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、ご本人の意向にそえるよう努めている。利用者様の為になる提案がある時は、無理強いせず、優しく伺い自己決定を待つよう心がけている。意思疎通の困難な利用者様にも利用者様本位に考え、スタッフの都合を優先せず支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、整髪がありパーマ・毛染め等、本人の意思を尊重しつつ助言をしている。又、行事等でお化粧や着物を羽織ったりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者様に好み・食べたい者を聞き、クッキングに反映させている。温かい物・冷たい物、細かくやわらかく等個々にあった状態で提供出来る様努めている。準備や片付け等を職員が見守り一緒に行っている。ランチマットや音楽にも気を使い、食事が楽しい時間になるよう、努めている。	配食業者の調理とホーム内調理(週2回のクッキング)を併用し、クッキングの日は、希望の把握・献立・買い物を行っている。利用者は、野菜を刻んだり・盛り付けたり、できることに参加している。食事中は、ラジオを流してゆっくり食事が取れるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量は主食・副食に分け記録している。おやつや一人ひとりの間食等も職員は関知しており、トータルでの摂取量を確認している。水分量も、毎食時・体操後入浴後の水分補給・おやつ時と確保している。又、それぞれの状態に応じ、トロミ・刻み等、食器類も対応した支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて、一人ひとり洗面所に移動して頂き、ケアしている。自己にて出来る方は見守り、出来ない方は一緒に行い確実な支援をしている。義歯については、每晚市販の洗浄剤に浸け置きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方を除き、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間で定期的に誘導したり、尿意を感じた行動によって誘導したり等、トイレでの排泄に努めている。日中・夜間とパンツ、おむつを使い分けている。又、プライバシーにも配慮した声がけに注意している。	排泄チェック表を使い、トイレでの排泄できる支援に努め、日中は紙オムツから普通のパンツになった人もいる。職員は、しぐさや表情から、利用者のサインを把握するように努め、一人ひとりの生活リズムや習慣を活かした排泄支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、水分摂取を多くするよう心がけている。ラジオ体操・歩行訓練・散歩等運動を取り入れ予防に努めている。又、個々に応じ腹部マッサージを行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆さんが、くつろげ明るい時間帯に入浴している。平等に入浴順も交替しているが、体調面・個々の要望で柔軟に対応している。本人の意向に合わせ、湯舟につかる、シャワーのみ等決定して頂いている。	現状、一日おきの午後の時間帯で、順番を交代して入浴している。入浴を嫌がる人には、時間をおいたり、職員を変えて声かけをしている。シャンプーを嫌がる人には、家族が週1回美容院へ一緒に行き、シャンプーをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れたベッド・布団・枕等、持ち込んで頂いている。リビング及び各居室の室温、湿度の管理も確実にし、特に夜間の乾燥に中止している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、定期薬でも毎回処方箋を確認している。変更があった場合は、薬剤一覧表をすぐ書き換え、スタッフ全員が把握できるように努めている。又、頓服・栄養ドリンクの服用時は記録し、その後の体調観察を大切に、申し送りを確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心身・生活歴情報を基に、得意なことをさりげなくお手伝いや指導する楽しみ、喜べる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ボランティアの協力を得て、定期的に市バスで図書館へ行かれていた。馴染みの美容院や近所の兄弟の家にお連れしている。又、季節の催しで外食等、出かける支援をしている。	季節感を肌で感じてもらい、気分転換・機能低下予防のため、天候が良い日には、毎日近くの池等へ散歩に行ったり、買い物にも行っている。また、普段行けない花見・外食等にも、車で外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には、スタッフと買い物に出て必要な物を購入して頂いている。自己管理できない方は、入居時家族に相談して事務所に保管している。必要な物の購入は、スタッフと一緒に買い物に行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、随時手紙・電話をして頂いている。又、本人が作った絵手紙や年賀状等、スタッフから送るよう提案し実行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのボードへは、利用者様と一緒に季節ごとの飾りを作って雰囲気作りをしている。4ヶ所あるトイレもまとまっており、わかり易い配置になっている。ドアの色による区分で混乱をまねかない配慮をしている。	リビングの壁には、利用者の作った花を飾り、季節感を出している。空気清浄機を1フロア2~3台設置し、インフルエンザや臭いに配慮している。ホーム内は清潔感があり、利用者は思い思いに、ソファやダイニングで寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブルでそれぞれ自由に過ごして頂いている。又、少し離れた場所には、一人がけの椅子を配置し、共用空間の中で、独りになれる配慮もしている。その場合は、そっと声かけをし、見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・飾り物等、利用者様及び家族の自由にして頂いている。又、写真やぬいぐるみを飾り、それぞれの個性を生かした居室作りを工夫し支援している。	ベッド、布団、タンス、ドレッサー、小物、家族の写真等を持ち込み、家族と相談し配置し、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、ドアの前に車椅子、杖マークが掲げてあり、利用者の状態が分かるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・トイレ・浴室等の壁には手摺を設け、安全に配慮している。手摺を利用した歩行訓練も行い、安全に歩行できるよう支援している。又、動線も安全を配慮した、テーブル・ソファの配置を工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームゆう

目標達成計画

作成日: 平成 22年 3月 24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	年2回、定期的を実施しているが、全職員が、初期消火・避難誘導等の徹底が十分ではないと思われる。	緊急時の連携が確実に行われるよう、全職員が同じ行動が出来るよう理解を深める。	定期的な訓練を行う上で、計画・実施・実施後の会議等、随時全職員に展開し、協同する。	12ヶ月
2	3	運営推進会議への取組み等が、ご家族・スタッフ全員の理解が十分ではない様に感じられる。	ご家族・スタッフ全員が、運営推進会議の意義を理解し、地域に開かれたサービスの提供と質の向上を図っていく。	現状は、報告書等をご家族へ送付し、又事務所カウンターでお知らせしています。今後、面会時などに、意見を伺って次回会議に、反映させていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月